

こぶし

no.15



上越こがし山の会

アルプスの民話

入道の話

むかしむかしの話です。

黒部溪谷をさぐる途中に鐘釣がゆつよの湯があります。

ある夜むかしのころに宿をとってりたのです。夜明けの敵策

の折、春のむこうから、朝のひかりがさしてきました。

すると、笑い声がするのです。大入道がたくさん大口をあけ

てたちをうらんでりるのです。

またある日のことです。

旅の僧が無縁仙の石へ飯養をうけてりると、たくさんの大入道

が坐って、合掌をはいめたというのです。

(黒部溪谷)

目次	
巻頭言	1-3
車ム局だより	4
大衆山行を終えて	
田中達	5
大島美昭	6
谷川穴山行	6
他サークルからの申込み	7
新入会員	7
戸倉本後記	7

『』の計画か『』の計画か

杉本敏宏

最近の会の運営などを思っていて、ひとつ気になることがある。県連内の他の会と比較した時、特にそのことが気になるのである。そのこととは何かというと、「表面的なまごまりの弊にひそむバラバラ」のことである。県団は『個』の集合だからし、せんバラバラと「なごまり」といふことと、JKACは、県連の中では最も先進的であり、活発であり、有能で有能な会であるといふように、他の会からは見られている。これが真実やつなら、そのことにホコリをもたなければならぬ。しかし、そうした表面的はなやかにこの影で進行する右様のまごまりに、今は眼をむけなければならぬ。

「最近のこの」県合宿」を例として話を進めよう。

この「合宿」は、三つの計画(当初四つ)だったものが、その内の二つは統合されて三つになったが、実際的にはやはり四つの計画だったように思われる(で実行されたが、これら三つの計画の間に何ら関連性がない状態)のである。会として、それぞれの計画に対してどういう位置付けと役割を考えたのか、全く不明なのである。そのうち三つは「一」の合宿と三つの計画を「二」の合宿と「三」の合宿と同時「実施」したのである。

この意味のちがいは理解していただけるだろうが、ここでは少し極端にそのちがいを考えてみよう。

一つの合宿といえは、その中でどんなルート、コース、山域さとうとうと、同一の目的をもち、同一の目標にむかってかまいに努力するということになる。技術の差、体力の差、山に対する接し方のちがい、命令の差、経験のちがいなど、前提としてその能力の範囲内で目的実現にむけて努力するということになる。ところが三つの合宿を組むということは、それそれのちがった目標と目的をもって行うということであり、三つの合宿の相互関係は考える必要がない。

一つの合宿をいくつかのコースで行なう場合、その計画には各コースの責任者とともに、合宿全体を統括する総責任者がいなければならぬ。この総責任者の責任は、各コース責任者のそれより重いものとなる。しかし、三つの合宿を行った場合、各合宿の責任者はその合宿の総責任者であり、他の二つの合宿に対して何らの責任も負う必要がない。

一つの合宿ならば、今回の様な上高地からのタクシートのチャーターは、全体計画を実施するための当然の仕事となるが、三つの合宿ならば、それは単に便宜をはかってやっただけであり、北條コースの者がこのタクシードライバーにも、上高地バスターミナルでひろ、た同乗者と何ら変わらぬのである。

極端にいえば、「一つの合宿」と「三つの合宿」の向には、こんなに大きなちがいがあるのである。

「力量に差があるから仕方がない」といつのが唯一の及論であるが、それが「三つの合宿」を行う理由にならないことは、すでに明らかなである。どんなに技術の差があつたとしても「一つの計画」の中で、共通の目的に向つて努力し、お互いに向ふことは可能である。それよりも、JKACの会員の「力の差」位だ、たう「三

「の合宿」などまったく必要ないといえる。「カの差」のために「一」の計画」にできないと考えている者が本
当にいてしたら、それは自己の技術に対する過信かヌヌホレでしかない。これほどの危険はない。

再度強調すれば、全く別の山入行っても、「一」の合宿」として討撃することは可能なのである。

「三」の合宿」は相互に関係がないといったが、それは、合宿の効果の評価にもありわけてくる。自分の参加
した合宿が成功すれば他の二つはどうであれ関係ないのである。自分の所は「よかつた、よかつた」といって
いはすれすむのである。相互に経験と交流し、学びあう必要はないのである。そういうことは、合宿の総括と
は別の会の運営の問題となる。ところが「一」の合宿」ならば、それらのことは合宿の総括の中で行なわれるこ
とになる。その場合、然責任者の果す任務が大きくなる。

今夏の場合を例に、合宿のあり方にもふれて述べてきたが、これが今夏の場合ではじめてあらわした現象では
ないことはいうまでもない。個人山行の寄せ集めという形態の集団登山が多くなってきた。寄せ木細工はどん
なこととしても強い建築物にはなりえないのである。大夏荘のとおりた建築物を作ることが今、JKAに求め
られているのではないだろうか。

ともかく、すべての合宿が、自分は何を求めて入会したかを振り返り、その求めたものが実現できる会に、
力をあわせてしようではないか。会の幹部はその先頭に立ってほしい。



事務局より

9月度予定

例会

9/26 PM 6:30より専ら所にて

時間までに集まりなすべく早く帰れるようにしよう。

運営委員会

9/26 PM 6:30より専ら所にて

議題は今後の山行計画・総会の打ち合わせ等

運営委員は必ず出席して下さい。

Xドコスサークルの打ち合わせ

9/27 PM 7:00より 専ら所(田中・古木)

個人山行

大井登山 9/30(3)日午後高田出発

参加希望者は田中まで

登山主健

9/27(土)の山行講習会は9/30に延期です。

オナングデブの支援カレンダー(78年版)

七枚一組 1,000円

申込は9/26までに田中まで

☆新体連(新日本体育連盟)新浮原連盟

が又回総会の議定書が来ていますので、事務局にありますのでみて下さい。

☆登山時報、奥連ニュースはフラインクとして事務局に置きますので全員が見るようになります。

☆本年度の登山主健主催の登山祭東が新浮原を企画して10/13に予定を組んでいます。

☆今年度の登山主健の打ち合わせは9/27(土)に予定を組んでいます。

☆会費は各個人と納めよう。

7/30(土)総会の話が出てきましたが、それまでに各個人と会費を納めて下さい。

納入は上野まで

大衆山行を終って(立山コース)

大島美昭

立山は今までの僕にとってほんの頭の巾に
なり存在であった。地図をじっくりと見たこ
とときなり水戸、立山とつりて勉強したとき
ピロに等しい。それほど僕にとって心むか
ゆる山ではなかつた。そんな人間が名目だけ
であったにせよ、いざとして山行を終る最
初に感じたのは、ふとりの経験人きなく、か
つたふとき出歩にふかつたというのだ。又
、山や花の説明などはすべからずにおおそ、
てしまふ。左様である。

山行内容は、山小屋では全量がむこつたの語
屋に入れたので、山や小説の語をた花を味
かき、参加者の交流を深めることのできた。
この様な瞬間をもちてこそか、大衆山行とい
つてお水ほびプラスになるかは、昨年西穂へ
行ったときを感じた。

入日は4時(30分)起床、6時発。小屋の前
でラジオ体操(?)を行ない足むくを軽く整つ。

別山で立山山をバックに記今早更をこる。こ
こからは緩急歩きで急な起伏をなくハイキ
ング的な快の登山歩きが続く。

ひまわり山の人の履鞋はピョクク。一の経
まで本人の間をぬって下。ききたとはいら感か
ピョククする。

重要点は予定より少しおくれで到着、これ
で今回の山行での山行は終了となる。

八合川金山山行

真部又美子

今回の山行目的地は愛宕山の訓練です。

ダンプの中にはお宿で使用する装備一式を詰
め訓練開始。コースは百重尾根と谷川岳と
剛新道と土谷山下山。谷川岳は標高があまり
なりので私としては愛宕山の続く時には谷川
をあまりおすすすめできませんが岩稜地帯の多
いおやーりりコースです。一度は岩稜をこ
らう。今回の山行で一番感じたことは水の太
切さでした。

映画「風船」

9月(日)11日 厚生会館

(高田大島海軍官立
行在所) 映画です。

料金

大人 1000円 (2000円)

小学生 400円 (2000円)

時間

19時30分

19時55分

20時15分

20時40分

高田大島海軍官立

以上「上越映画」

より中入本が取り戻

した。

高田大島海軍官立

より取り戻した本が取り

戻した。

●新入会員紹介

●岩野志子

上越市本町174

電話 1-5029

5月21日 日曜

上越児童相談所 24-3355

●藤原文子

中野村松崎 234

電話 1-5029

5月21日 日曜

上越児童相談所 24-3355

●野村

●編集後記

個人納金部会では、定
額が少く減り過ぎた
ましまが、今日の集
計は、おかげです。

昨年は、おかげで、送付
てきた通信教育の集
計レポートを、おかげ
で、おかげにまたおかげ
を出し、一段落。

このおかげ、おかげ
おかげ、おかげ、おかげ
おかげ、おかげ、おかげ

おかげ、おかげ、おかげ
おかげ、おかげ、おかげ
おかげ、おかげ、おかげ



 杉本

杉本 昭博
五 五 五 五 五 五
五 五 五 五 五 五
TEL. 02-5342-1111
発行 昭和五十七年八月五日
編集責任者 杉本 昭博
発行日 昭和五十七年八月五日